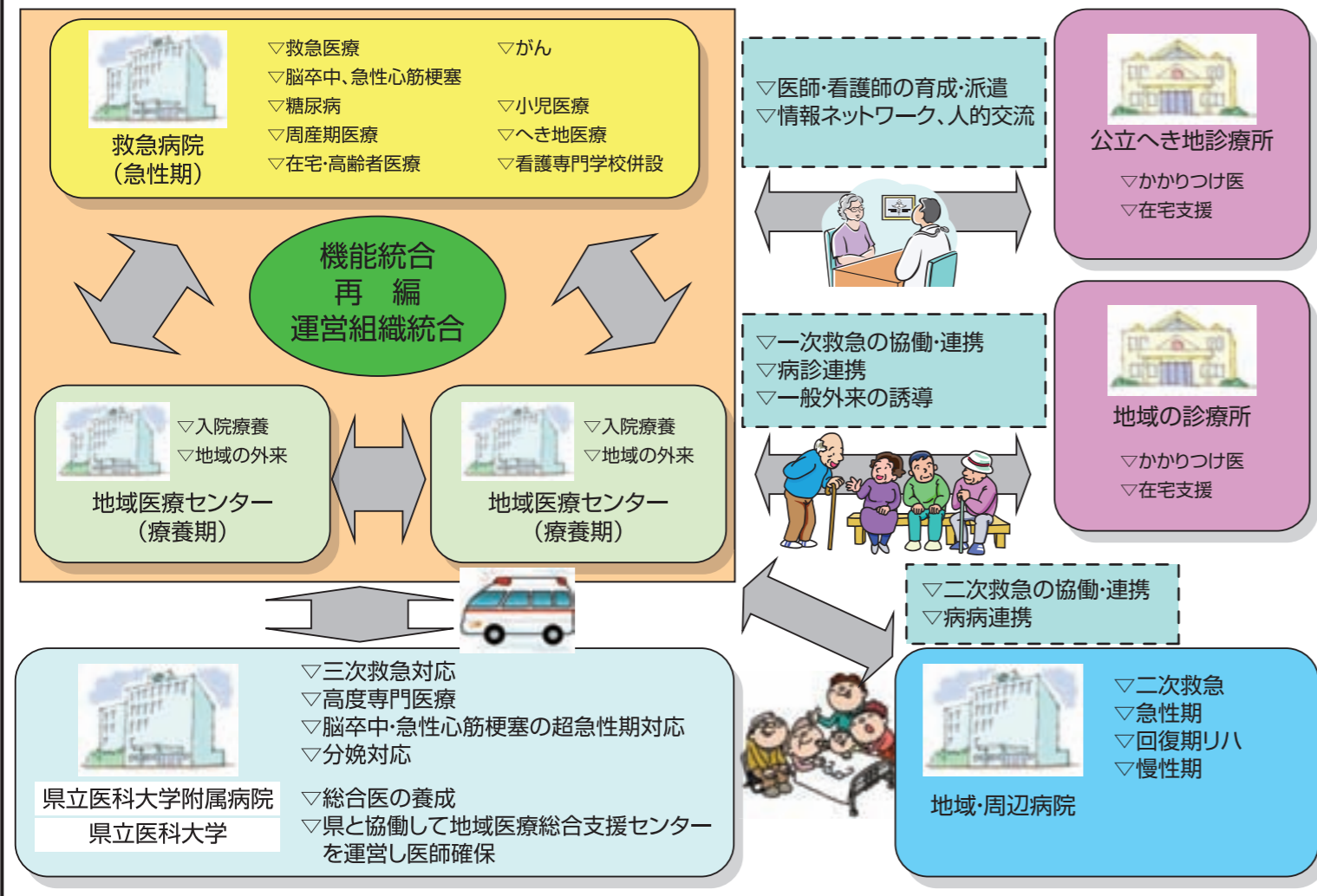


地域の診療所、公立へき地診療所、県立医科大学、地域・周辺病院との連携



南和の医療は南和で守る

新南和公立病院体制 基本構想・基本計画の概要



南和地域の医療が生まれ変わります！

医療機能が低下している南和地域の3つの公立病院は、1つの救急病院と2つの地域医療センターに役割を分担して、新しい組み合わせの3つの病院に生まれ変わります。

この目標に向かって、奈良県と五條市、吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村の13の地方公共団体が（仮称）南和広域医療組合[※]の設立を進めています。

※（仮称）南和広域医療組合は、13の地方公共団体の病院に関する事務を所管する特別地方公共団体で、平成24年2月設立予定の一部事務組合です。

南和地域の医療の現状と課題

南和公立3病院（県立五條病院・国保吉野病院・町立大淀病院）では、地域の人口減少によって患者数が減少しています。そして、患者数の減少に伴う医師・看護師の減少によって、さらに患者数が減少するという悪循環が生じています。

このような状況にありながら、これまでそれぞれの病院は役割を明確にできず、同じような機能の病院として運営してきました。この結果、南和地域の入院患者のうち、約60%は地域外の病院で入院しているという状況になっています。

地域内の人口減によって患者数が減少傾向であっても、病気になってから療養やリハビリまで、切れ目のない医療提供体制をつくる必要があります。

さらに、広い山間部の患者さんに対応するため、公立へき地診療所への安定した医師・看護師の配置と支援機能を確保することが必要です。

地域医療を再生する方策
→ 次ページ以降に記載しています

気になること

聞いてみました



五條病院や吉野病院での医療サービスはどうなるの？

五條病院と吉野病院は、地域医療センターとして長期療養に適した病院となります。地域医療センターでは、今後とも身近な外来診療を受けることが可能です。また、手術等が必要な場合、速やかに救急病院に入院できるよう救急病院と連携します。



医師・看護師の確保は可能ですか？

医師・看護師が不足していることは全国的な課題で、南和地域も例外ではありません。そこで、働く人に魅力的な病院づくりはもちろんのこと、奈良県立医科大学との連携や、県立五條病院のノウハウを継承・発展させた看護専門学校の設置など、様々な取り組みを行って医療スタッフの確保に努めていきます。



家が病院から遠く、私には関係のない話に感じます。

新体制では、広大な南和地域全体の皆様にとって最適な医療サービスを提供することをめざしています。公立へき地診療所の医師や看護師の育成、診療所からの予約、レントゲンなど患者情報の共有、巡回診療、在宅医療支援、災害対応、ヘリポート整備など様々な取り組みを行います。



南和の医療等に関する協議会事務局

〒637-0041 奈良県五條市本町3丁目1-13 内吉野保健所2階 Tel 0747-22-1283 Fax 0747-22-1284
e-mail jimukyoku@nanwairyoku.jp ホームページ <http://nanwairyoku.jp/>

南和の医療

検索

地域医療再生の取り組み 5 つのポイント

南和地域の住民の皆様によりよい医療を継続して提供できるようになることをめざします。

ポイント 1 地域の救急を断らない病院をめざして救急医療を強化します

救急病院に医師・看護師を重点的に配置することで、24時間365日、救急車を受入れできる体制をつくり、搬送受入を断らない救急医療をめざします。



▼紀伊半島大水害の災害医療支援のためヘリコプターに乗り込む県立五條病院の医師



ポイント 2 災害対策の医療を強化します

東日本大震災、また、この地域に甚大な被害をもたらした紀伊半島大水害。災害時に対応できる医療体制をつくることはとても重要です。中でも、災害時に道路が通れなくても患者さんを病院へ搬送できるヘリコプター、災害現場で初期対応にあたる医師・看護師等による災害派遣医療チームの存在は特に重要です。そのため、救急病院では、ヘリポートを設置してヘリコプターによる患者搬送の受入れを可能にして、より迅速な救急医療・災害医療の対応をめざします。また、平常時から災害派遣医療チームを編成して災害時に備えます。

ポイント 3 地域医療センターを設置して高齢者のニーズにあった長期間の入院医療を充実します

近年、地域住民の高齢化に伴い、救急病院を退院することになったものの、引き続き入院を必要とする患者さんの受入れ先の整備が求められています。地域医療センターでは、患者さんが安心して療養のために入院できる体制を整備し、地域で急性期から療養期、そして在宅までの切れ目のない医療の提供をめざします。



ポイント 4 在宅医療やへき地医療の強化など地域に密着した医療サービスを強化します

南和地域にとって在宅医療・へき地医療の強化はとても重要なテーマです。住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりのため、公立へき地診療所と南和公立3病院との情報ネットワーク化を推進します。具体的には、医師・看護師の養成・派遣や巡回診療を行うほか、公立へき地診療所と3病院を情報ネットワークで連携することにより、病院での診察や検査の予約、レントゲン結果の相互利用など、さらに充実した医療提供体制をめざします。また、公立へき地診療所や地域の医療機関と連携して、在宅患者さんへの訪問診療の強化を図り、地域密着型の医療をめざします。

救急病院と地域医療センターの病床規模と診療科



救急病院 大淀町福神地区に新設

救急病院（急性期）

病気やケガで入院が必要になった患者さんに、専門的な治療を行います。

- 病床規模 需要面や供給面を勘案し、250床程度(一般病床)
- 診療科 内科(総合、循環器、呼吸器、消化器)、神経内科、外科(消化器、総合)、脳神経外科、整形外科、産婦人科(分娩は当分休止)、眼科、小児科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、精神科(外来のみ)、歯科口腔外科(今後検討) 消化器病センター、糖尿病センター、在宅医療支援センター、健診センター

看護専門学校

地域医療を支えるため必要な看護師を養成・確保します。

- 学校規模 定員120名(定員40人×3学年)

地域医療センター(療養期)

症状の比較的安定した患者さんに、長期間の入院医療を提供します。

- 病床規模 2施設で各90床程度(療養病床) 合計180床程度
- 地域ニーズの高い長期入院機能
- 在宅への連携を見据えた高齢者医療
- 地域の身近な外来機能(内科・整形外科、※眼科等は今後検討)

※ 町立大淀病院は、救急病院開院の時期に合わせて閉院となります。



地域医療センター 県立五條病院を改修



地域医療センター 国保吉野病院を改修

ポイント 5 基本理念は「南和の医療は南和で守る」

新南和公立病院体制では、「南和の医療は南和で守る」を基本理念として掲げています。この基本理念に基づく方針として、
 ①行政機関として 「医療提供体制は、地域の市町村が主体的に支えていくこと」
 ②医療機関として 「地域住民が必要な医療を適切に受けられる体制をつくること」
 ③地域住民として 「医療提供体制を将来にわたり維持するためには、医療を受ける側の地域住民が理解を深め、協力すること」
 の3点を挙げています。この基本理念と方針に基づき、地域住民の健康な生活を将来にわたり確保するため、新たな病院経営のしくみをつくります。

